

## 2025年3月版『住宅用建材使用状況調査』発刊のお知らせと結果概要について

(一社)日本サッシ協会 調査部会では、毎年、サッシメーカー各社の協力を得て、戸建及び共同建(アパート)に取り付けられているサッシ・ドア・エクステリア等、各種建材の実態を調査・集計し、「住宅用建材使用状況調査」として取りまとめています。この度、最新版となる「2025年3月版」を発刊いたしましたので、お知らせいたします。

住宅用建材使用状況調査は、1977年の第1回調査報告書発刊以来、今回で通算49回目を数えます。調査対象は、全国都道府県(沖縄県を除く)の居住専用の木造並びにプレハブ住宅で、今回は、2023年8月から2024年夏までに建てられたものとしています。調査にあたっては、国土交通省の住宅着工統計に基づいて都道府県別の調査件数を割り振っており、有効調査数は戸建で3,144件、共同建では約1,154件の回答を得、それぞれ3,000と1,000に基準換算しています。

調査項目は、「戸建」と「共同建(アパート)」の2部構成で、調査対象となったそれぞれの住宅の「工法」「階数」「床面積」等の特性、及びそれら住宅に使用された「窓」「玄関」「エクステリア」の「材質」「製品タイプ・取付率」「色」等を中心に分析しています。また、項目毎のデータは、全国平均値のほか、地方別9区分(46都道府県別)、断熱地域別8区分(8地域を除く)、工法別3区分にて、それぞれ集計し、「調査集計表」として掲載しています。

窓においては、かねてより耐風圧、気密、水密の基本3性能を重視しているのに加え、近年の環境問題や社会情勢を鑑み、断熱や防犯といった各種性能にも焦点があたるなど、その役割はますます重要となっています。それらの動向を把握する上で、参考となるデータも含まれていますので、ご興味のある方は(一社)日本サッシ協会までお申し込みください。

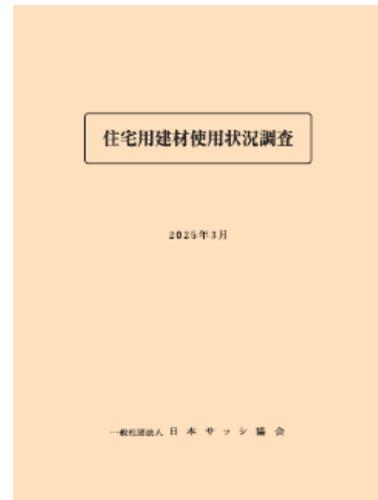
[書籍名] 「2025年3月版 住宅用建材使用状況調査」

A4判 185頁 定価5,500円(会員価格3,300円)

[申込先] (一社)日本サッシ協会のホームページ 「出版物一覧」

(<https://www.jsma.or.jp/publication/>) よりお申し込みください。

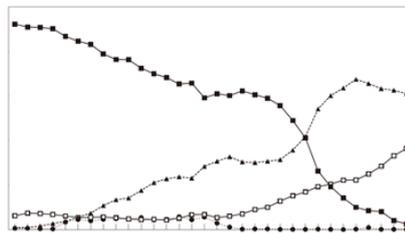
[問合せ先] (一社)日本サッシ協会 大野 TEL: 03-6721-5934



【2025年3月版 調査結果概要】(％は小数点以下第一位を四捨五入)

## I. 戸建

- ・階数別構成比は、「二階建」が75%と最も高いが、近年「平屋建」が増加しており19%。
- ・今回より、「窓の材質別構成比と推移」の項目を新たに追加し、本調査を開始した1993年以降の推移グラフを掲載した。直近の材質別構成比は、「アルミ樹脂複合製」が最も多く61%、次いで「樹脂製」が36%であった。(右図はイメージ)
- ・窓のタイプ別構成比は、「特殊窓」66%、「引違い窓」33%であった。断熱地域別にて「1地域」「2地域」は、「特殊窓」が大半を占める。
- ・窓の外観色構成比は、「ブラック」「ライトグレー」「ホワイト」の順に高く、ここ数年、「ブラック」が増え「ライトグレー」が減る傾向にある。
- ・「アルミ樹脂複合製」「樹脂製」「木製他」を合計した窓の断熱化率は、過去最高の98%を超えた。なかでも「樹脂製」はすべての断熱地域区分で増加し、普及が進んでいる。
- ・窓に使用されるガラスは、「複層ガラス Low-E ガス入」が6割近くにまで増加し、高性能化が進んでいる。
- ・玄関ドアの色は、「木目調(ラミネート)」が8割を占める。
- ・玄関ドア(開戸)の電気錠システムの取付率(戸数比)は、65%に達した。
- ・浴室出入口のタイプ別比率は、「開戸」「中折戸」「引戸」の順に多くなっている。
- ・窓シャッター・雨戸の取付率(戸数比)は55%で、地方別には「関東」「近畿」で高い。窓シャッターの電動化率は27%と22年19%から増加している。



## II. 共同建(アパート)

- ・1棟あたりの平均世帯数は8.7世帯、1世帯あたりの平均床面積は36.5㎡と前年より減少。
- ・「戸建」と同じく、「窓の材質別構成比と推移」として、1993年以降の推移グラフを掲載した。直近の材質別構成比は、「アルミ樹脂複合製」が最も多く75%、2016年以降急増している。樹脂製は4%とまだ低い。
- ・窓のタイプ別構成比は「引違い窓」58%、「特殊窓」41%であった。
- ・窓の外観色構成比は、「ライトグレー」「ブラック」「ホワイト」の順に高く、「ブラック」が急増している。
- ・「アルミ樹脂複合製」「樹脂製」「木製他」を合計した窓の断熱化率は、過去最高の79%。
- ・窓に使用されるガラスは、「複層ガラス Low-E ガス無」が7割を占める。

上記以外にも、「戸建」「共同建」とともに、面格子、バルコニー、カーポート、門扉、宅配ボックス等の、取付率をはじめとした各種調査を実施している。

以上

【住宅用建材使用状況調査のページサンプル】

(2) 引違い窓(94頁参照)

取付率窓数比の全国平均では33.1%(前回33.1%)となっている。1982年の78.4%から低下傾向が続いており、ここ数年30%台となっている。

断熱地域別にみた場合、1地域で1.8%(前回18.5%)、2地域で6.6%(前回6.6%)、3地域では21.2%(前年22.6%)と低い比率となっている。それ以外では、30~35%前後の使用率となっている。

材質別にみた場合、全国平均でアルミ製3.1%(前回5.3%)、アルミ樹脂複合製65.9%(前回68.8%)、樹脂製30.9%(前回25.8%)と樹脂製が増加し、アルミ樹脂複合製とアルミ製が減少した。

断熱地域別では、6地域では4.0%(前回6.1%)がアルミ製となっているが、それ以外の地域は2%未満と極端に低く、樹脂製とアルミ樹脂複合製の使用により、アルミ製は低い比率となっている。

図14. 引違い窓の取付率の推移(全国)

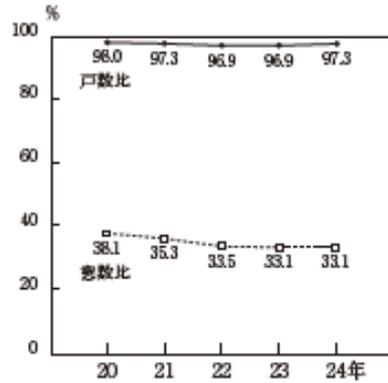


図15. 引違い窓の取付率(地方別、断熱地域別)

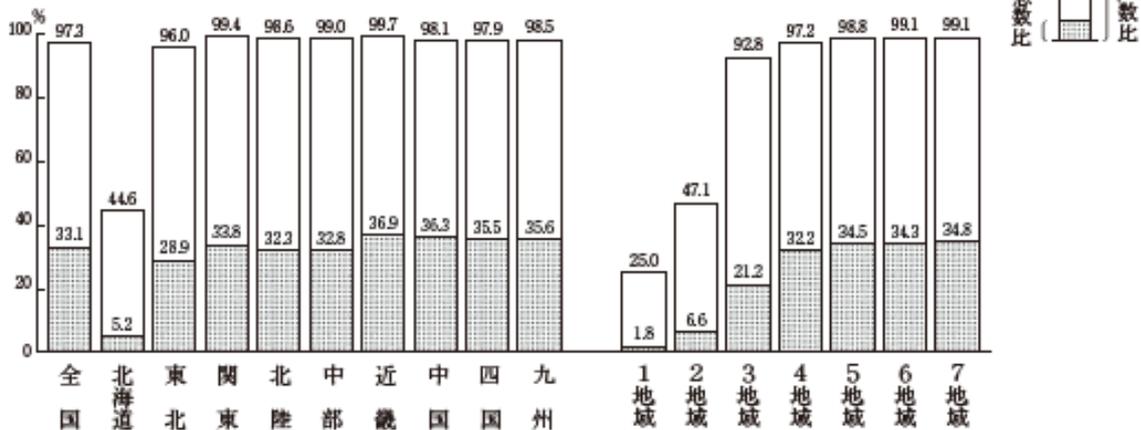


図16. 引違い窓材質別構成比(断熱地域別)

